

が調和した町

合併5周年の節目の年

6月4日から16日まで、平成22年第2回町議会定例会が開かれ、川添健町長が「平成22年度施政方針」を述べました。その一部を抜粋し、お知らせします。

このたびの選挙で、再選という栄に欲することができました。昨年9月に表明いたしましたとおり、「夢と活力があり、福祉が充実した町づくりに」に全力を投入することをお約束いたします。

夢づくりでは、引続き3県架橋や獅子島架橋の推進は言うまでも無く、町民が癒され、そして自慢できる「ぐるっと一周の石積みの花街道づくり」を目指します。

活力では、農業、漁業を中心とした第1次産業の振興に加え、来春迎えます九州新幹線鹿児島ルート全線開通を見据えた観光との融合を模索してまいります。

公共事業においても、雇用の確保や旧町間の格差是正の

観点から、厳しい国の財政状況の中ではありますが、努力してまいります。

福祉におきましては、福祉事務所を核としながら、住民一人ひとりが幸せ感をもてるきめ細やかな対応を図ってまいります。

さらには、潤いのある教育や女性の声を反映できる町政の活性化を図ってまいります。昨今皆さまも十分ご承知のとおり、国においても歪な財政構造ではありますが、長島では活力と健全財政が調和した運営を基本としてまいります。

2期目の運営には、大きな課題もたくさんあります。一つには、学校の規模・配置の適正化のあり方。二つ目に

は、庁舎、消防施設、給食センターの問題。三つ目には、大型宿泊施設の研究など、皆さま方と十分議論をし、一定の結論に向けて努力してまいります。

アメリカの心理学者ケリング博士の「割れ窓理論」によりますと、荒廃した建物はさらに放置され、逆に整頓された町は住民に安心感をつくりだし、相乗効果を生む、との考えであります。長島一周花街道づくり事業は、住民の誇りと自慢はもちろんでございますが、景観、観光、環境、教育、交通安全等々、町づくりの中核となる事業にしたいと思ひ、景観推進課を設置し、その拠点にしたいと思ひます。